

保護者会で
使える！

新しい学力観を“15分で” 体感してもらうお役立ちツール

保護者に教育改革を どう伝える？

「保護者に教育改革をどう伝えるか」ということは、先生方にとって、複数の側面から考えていかなければならない課題かもしれない。

2020年度の新テストの導入など、入試動向に元から関心の強い保護者は、「テストはどうなるのか」「学校はどう対応してくれるのか」を知りたいはず。そうした保護者の期待に応えていくには、何をどう説明すればいいだろう。

他方で、入試の変化をまだよく知らない保護者もいるが、家庭と連携して生徒をサポートするには、そうした保護者にも入試や教育の改革を理解してもらう必要がある。

今の保護者は、知識を暗記してテストで再生する、という勉強をしてきた世代。そこに現在進行形の教育の変化をどう伝えるか。ここでは一案として、冒頭でこれまでの学力を振り返り、次にこれからの学力を感じてもらい、最後に背景を伝える3部構成を考えた。

Point 1

これまでの学力とは、を振り返る

「そんな勉強したなあ」という共感を呼び覚ます

説明用のスライドは3部構成。第1幕では、かつての学力とは「知識や技能を覚えて、それを再生する」という力が軸になっていたことを感じてもらう。

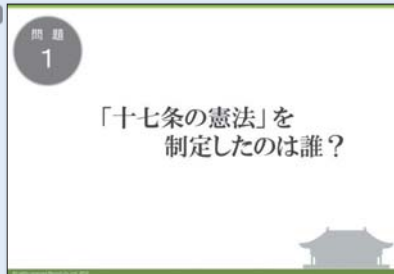
そのための手段として、「問い」答の問題や、覚えた用語を使って文章をまとめる問題を、スライドで提示。保護者が高校生だった頃は、「知識が身に付いたか」を問われる中で勉強していたことをまずは思い出してもらう。

また、その学習においては、反復による暗記が大変だったことや、テストで記憶を引っ張り出すのに苦労したことなども共有。共感を得ることで、この時間への参加意識を高めた。

保護者に教育改革のことを伝えるツールを、お二方の先生にご協力いただき作成しました。目指したのは、進学希望の生徒が多い高校でも、就職希望の生徒が多い高校でも、使えるもの。先生方の現場の実情に合わせて、アレンジしてご利用いただければ幸いです。

取材・文／松井大祐

ダウンロード可

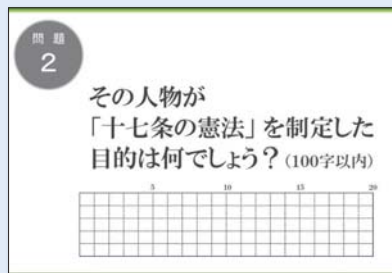


▲「〇〇を作ったのは誰でしょう?」「こうした問題をたくさんやってこられましたよね」と投げかけ、共に考える。

ここが重要!

保護者を不安にさせず
楽しく考えられる場に

- ▼昔は「知識・技能の習得→再生」が授業やテストで問われていたのを感じてもらう。
- ▼「問いかけ」を大事にして、保護者が聴くだけでなく共に考えてくれる場を目指す。
- ▼問いかけても、指名して答えてもらうことまではしない(自発的の回答は歓迎)。「間違えたら恥ずかしい」という不安を与えない。
- ▼保護者が経験してきたであろう暗記学習を否定しない。それが苦痛だった人もいれば、そこをがんばったことが勲章な人もいる。



▲「このような問題にも取り組みませんでしたか?」と発問。「今はインターネットで調べればある程度答えがわかります。便利になりました」と時代の変化にも言及。



2つのスライドの問いは、正しい知識を覚えているかを問うもの。私ですが、過去に知識を問われて間違えた経験が多い人には、「これ、わかります?」と投げかけられるだけでもう圧迫感があります(笑)。「指すことはしません」と宣言してもいいと思います。

企画協力



東京・都立
六郷工科高校
社会科
田中駿一先生



渋谷教育学園
渋谷中学高校
国語科
河口竜行先生



問題
3

「十七条の憲法」に、
もう1条加えるとしたら
あなたなら何を加えますか？



問題
4

「十七条の憲法」を踏まえて、
あなたの学級運営ルールを
考えるとしたら、
どのような内容にしますか？



▲「もしあなたが」、「あなたのクラスだったら」。
考える力、自分だったらどうするかを問う問題

この問いを保護者の方々にグループで考えていただき、対話によってお互いの気づきが増えるところまで味わってもらえたら、より面白そうですね。…ただ、もしそうしたワークを入れるなら、事前に場を温めておく準備が不可欠になると思います(次ページ参照)。



ここが重要!

言葉だけで伝えると上滑りするので、ここでも具体的な問いを提示。答えるにはどんな力が必要になるかを保護者に体感してもらい、「思考力や主体性を発揮するとはどういうことか」「知識を学んだうえで『活用』するとはどういうことか」といったことへの理解を深める。

知識の「習得」と「活用」の違いがわかるように

- ▼ 問いに答えるには教科書やネットの知識だけでは足りず、「自分ならどうするか」を思考し、表現しなければいけないと感じてもらおう。
- ▼ 知識は不要になるわけではないことも明確に示す。習得した知識(十七条の憲法の中身等)を「活用」すれば、何も知らなかったときより「自分ならどうするか」をより深く思考できることを感じてもらう。



十七条の憲法は役人の心がまえを説いたもので、聖徳太子が制定に関わったとされるもの。ですが聖徳太子が亡くなる頃には、豪族の蘇我氏が権勢をふるい、うまく回らなくなります。例えばこうした知識も、暗記のためではなく、考えるために活用できるわけですね。

Point
2

これからの学力とは、
具体的な問いで伝える

自分ごとで考えないと
答えられない問いを提示

第2幕では、これからの学力とは「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」も大切だといふことを理解してもらおう。いわゆる「学力の3要素」だ。

Point
3

なぜ？ その背景を3つの視点から伝える

社会の変化が
大前提にあることを紹介

第3幕では学力の要素が見直された背景を紹介。入試が変わるから、という近視眼的な話ではなく、生徒がいざれ飛び込む実社会が激変しており、その未来で力を発揮できるようにするための改革であることを伝える。

高校も大学も入試も
三位一体で変わると紹介

文部科学省が「学力の3要素」を示し、それに基づいて「高校教育」だけでなく「大学教育」も、そして高校と大学をつなぐ「入学者選抜」も改革が進むことを紹介。3つの変化は全部つながっていることを理解してもらおう。

個別入試と共通テスト
両方の変化を紹介

個別大学でも以前とは異なる入学者選抜が始まっていることを伝え、共通テストでは記述式問題の導入のほかマークシートの問題の導入方法すら変わることを紹介。保護者の受験時代との違いを感じてもらおう。



▲「実際、大学の入試では〜」「マークシートの回答も〜」と実例をあげる。

ここが重要!

- ▼ 入試選抜方式の変化を示し、数十年前の受験勉強のやり方は通用しないことを理解してもらおう。
- ▼ 入試問題の例は学校の状況に合わせて変更も。保護者の心に響きやすいものを取り上げたい。



▲ 共通テストも個別大学の入学者選抜も「学力の3要素」が問われると紹介。

ここが重要!

- ▼ 社会の変化に向き合っていくための「高大接続」の三位一体の改革であることを実感してもらおう。
- ▼ 2020年度導入の新テストだけでなく、大学の入試選抜すべてに変化が及ぶことも理解してもらおう。



▲ 「社会の変化」を伝え、それに伴う「個人の生き方・働き方」の変化も示す。

ここが重要!

- ▼ 価値の「継承」から「創造」へといった社会の変化を実感してもらおう。
- ▼ 上のスライドはまとめ用。前段階として、仕事の仕方や必要な能力の変化、生活の変貌などの具体例で、保護者に変化を実感させたい。

社会も変わり、教育も変わります。

学校教育でできること
ご家庭でできることは何でしょう？

これからは保護者の皆さんと一緒に
考えていければと思います。



進学希望の生徒だけでなく、就職希望の生徒も多い学校では、「大学教育」「入学者選抜」の改革と合わせて「企業の採用方針」「企業が求める人材像」の変化も示すと、「高校教育」も変わらなければいけないことがより伝わりやすくなると思います(次ページ参照)。



社会の変化については、1960年からの30年間、1990年からの20年間、2010年からの10年間の変化の度合いを比べてもよいかもありません。変化のスピードの加速を感じるんです。大きな変化が一生涯のうちには次々訪れる時代になった、だから継承より創造が必要だ、と。

実際の保護者会でどう使う？

作成したツールを自分ならどう使うか、「ご協力いただいた先生方に全体構成も考えていただきました(ダウンロードサイトに詳細な資料あり)」。前後に独自のコンテンツを加えたり、ツールそのものをアレンジしたりと、「ご自由にお使いいただければと思います」。

45分
あったら？

学年会

データを活用した説明で
社会背景から理解してもらおう



就職動向の変化を枕に 教育改革への関心を高める

本校では生徒の半数以上が卒業後に就職します。その保護者の皆様に、求められる学力や教育改革のお話をするときには、どの生徒にも関係する話であることをまずご理解いただきたいと思います。そこで、はじめに導入として、生徒たちがいざれ飛び込むことにな

る社会の変化を、「採用で重視される力」や「企業が求める人材像」のデータから読み取っていただく構成にしました。昔と今では求められているものが違うのです。

そのうえで「社会が変化している今、学校はどうなるのでしょうか」と投げかけ、学校の変化に対する関心を高めたいので、本題に入りたいです。

田中先生の考えた全体構成

- ① 学年の各種連絡、説明……【15分】
- ② データでみる社会変化①…【5分】
「採用で重視される力」
20年前に上位だった「専門知識・研究内容」は圏外となり、「チームワーク力」が上位に等(平成25年版『労働経済の分析』のデータを活用)
- ③ データでみる社会変化②…【5分】
「企業が求める人材像」
円満な人柄など『問題を起こさないこと』より、チャレンジや柔軟性など『社会の変化に進んで取り組む力』が重視されるように等(リクルートワークス研究所「大学新卒者に求める『能力』の構造と変容」のデータを活用)
- ④ ツールの活用……【15分】
「学校、社会はどう変わる？」
- ⑤ まとめ……【5分】
子どもの思考力や主体性を「学校・地域・家庭でどう伸ばしていくか共に考えたい」と呼びかけ

クラス会

グループワークを入れて
学びを疑似体験してもらおう



居心地に気を配りながら 考えることや対話を楽しむ

本校の保護者の皆様は他の保護者と知り合うことに前向きな方が多いので、ワークショップ形式の開催を考えました。自己紹介から始める形にしたのは、6人掛けの各グループの場を温めて、少しでも居心地を良くしてから、担任の話や本題に入りたかったからです。

ワークでは「もう1条加えるなら」を話し合う前に「これを考えるために必要な知識は？」を問います。十七条の中身や時代背景を「知りたい」方が出てきますよね。探究心をもって知識を学び、その知識を活用しながら対話して気づきを得る。そうした学びを一緒に楽しんだうえで、子どもに身に付けてほしい力を共に考えたいです。

河口先生の考えた全体構成

- 事前準備(場のセッティング)
 - ・6名掛けとなる机の島を5つ作る
 - ・各机に名札と、名札を書くマーカーを用意
- ① 保護者同士の自己紹介……【10分】
各グループごとに自己紹介(1人1分半)
自己紹介の際に次のテーマにもふれていただく
「最近お子さんのことで気になっていること」
- ② 担任からのコメント……【5分】
各種連絡、クラスの様子、この会の趣旨など
- ③ ツールのアレンジ活用……【20分】
「生徒の学びを疑似体験」
スライドの問題③「もう1条加えたら」を示した際に次の2点をグループで議論(5分間)
「この問いを考えるために必要な知識は？」
「実際にどんな1条を加える？」
- ④ 振り返りとまとめ……【10分】
グループで今日の感想と次の点を話し合う
「子どもに学校で身に付けてほしい力は？」